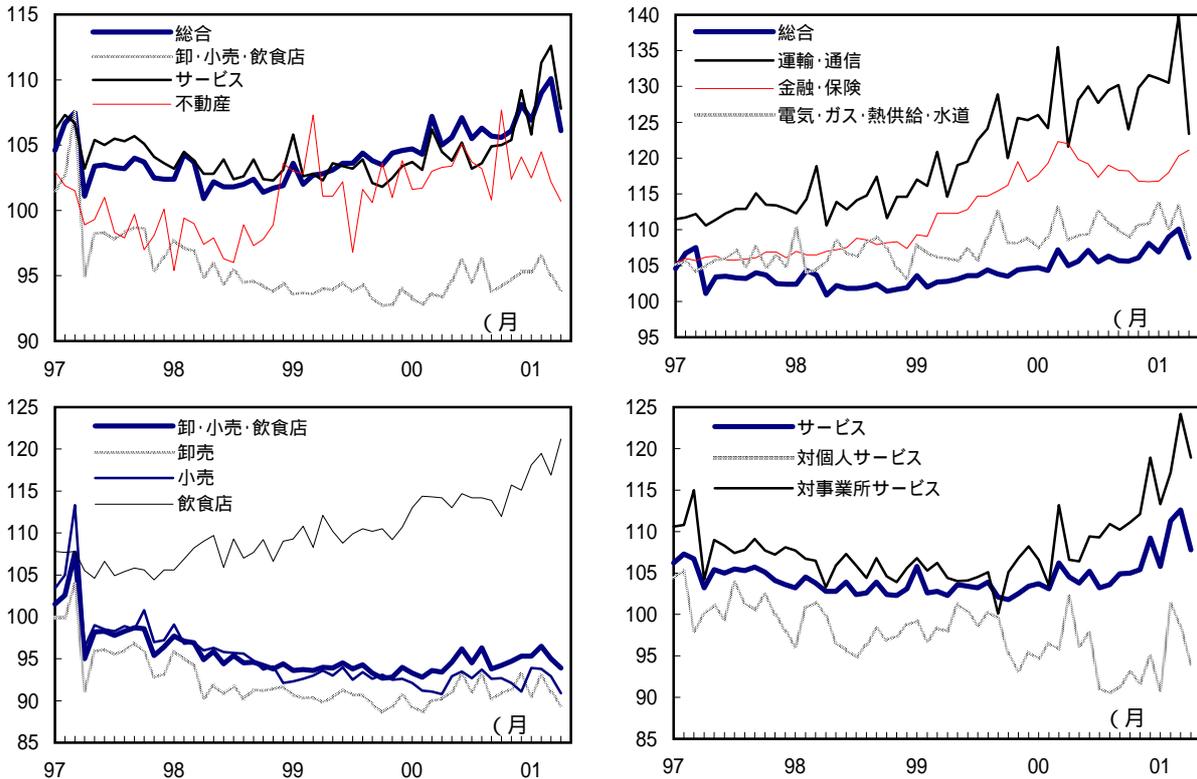


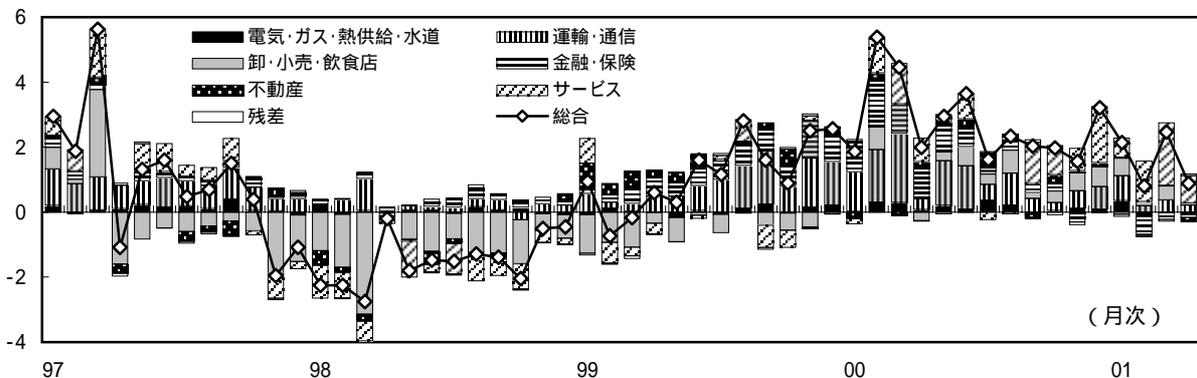
## 第3次産業活動も頭打ちの兆し

- ・第3次産業活動指数は、第3次産業の生産活動を数量面から捉えた指標であり、全産業活動指数（供給側からみた実質GDP）の約6割のウェイトを占める。
- ・4月の同指数は、前月比3.6%の低下と、現行基準では消費税率引上げ後の97年4月（6.0%低下）以来の大幅な落ち込みとなった。4月の水準は1 - 3月期を2.4%下回っており、4 - 6月期が前期比で低下となる可能性も出てきた。同指数が四半期ベースで低下するのは、わずか0.1%の低下であった2000年7 - 9月期を除けば、99年4月の景気の谷以降で初めてとなる。
- ・通信業や対事業所サービス業では前月の大きな伸びの反動の側面もあり、更なる見極めを要するが、鉱工業生産に続いて第3次産業活動にも景気後退の陰が迫りつつあるといえよう。

産業別第3次産業活動指数(季調値、95年 = 100)



第3次産業活動指数前年比の業種別寄与度



(備考) 経済産業省「第3次産業活動指数」により作成。

[調査部(経済調査担当) 中村 純一]